

深川探訪

門前仲町駅から両国駅まで歩くコースです



富岡八幡宮アプローチの大鳥居



どう見ても「明神鳥居」型だが扁額を持つ





建久年間に源頼朝が勧請した富岡八幡宮(横浜市金沢区富岡)の直系分社である。深川八幡とも。



本殿



(この建物の後ろに御神木があり、本殿はなく、この建物は拝殿なのかもしれません)

屋根は鍔葺のようである





現代建築風の斗拱となっている







伊能忠敬の銅像



伊能忠敬は、当時深川界限に住居を構え、測量の旅に出かける際は、安全祈願のために、富岡八幡宮に必ず参拝に来ていたことから、当八幡宮の境内に銅像が建立された。

伊能忠敬銅像

近代日本地図の始祖である伊能忠敬は、事業に成功したあと五〇歳のとき江戸に出て当宮近くの黒江町（現在は門前仲町一丁目）に隠宅を構えていました。

約二〇〇年前の寛政十二年閏四月十一日（陽暦では一八〇〇年六月十一日）の早朝に当宮を参拝して蝦夷地（北海道）測量の旅に出かけました。

忠敬先生はこのときを含めて全部の測量を一人で担当しました。出発前には、遠国に出かけた第一の都度必ず、内弟子と従者を率いて八幡宮に参詣して、無事を祈念したのち、千住、宿など測量開始地点に向かって歩き出しました。は伊能測量に参詣する。

伊能測量開始二〇〇年にあたり、伊能忠敬の業績を顕彰し、測量の歴史を伝える「伊能ウオーク」、地図・測量、土地家屋調査士、伊能忠敬研究会などの関係者が中心となって、広く一般から資金を公募して建立されました。

平成十三年十月

伊能忠敬銅像建立実行委員会

大関力士碑



大関力士碑

当宮は江戸勸進相撲発祥の地として知られ、明治年間には歴代横綱の名を刻んだ横綱力士碑（本殿に向かって右側の奥）が建立されましたが、この大関力士碑は歴代の大関を顕彰し（横綱に昇進した力士と実際に取り組みには入らなかった看板大関を除きます）昭和五十八年に建てられた碑で、九代目市川團十郎と五代目尾上菊五郎が明治年間に寄進した仙台石を利用しています。

神輿庫



もう少し全体の調和を旨としたデザインを考えてもらいたい

手水舎



資料館





もう少し社寺風のデザインにしてほしい(中途半端)

横綱力士碑



贊 協

有徳無量

中曾長康公

江ノ上

小松崎軍次

有徳無量

鈴木俊一

大勝寺	大勝寺	大勝寺	大勝寺
大勝寺	大勝寺	大勝寺	大勝寺
大勝寺	大勝寺	大勝寺	大勝寺
大勝寺	大勝寺	大勝寺	大勝寺

テ對手
八ヶ岳
角力

松澤 興七
井上 角五郎
濱口 仁兵衛
渡邊 多小次郎
同師 民嘉
三村 周
渡邊 大次郎
大田 治兵衛
七ノ上 兵衛

小松崎 茂助
根本 辰五郎
田中 平八
安生 順郎
安部 幸兵衛
藤平 重資
田崎 長國
高橋 長舟
今 近松

鳥 大
瓜 山
山 白
北 水

今回の東日本大震災の影響である

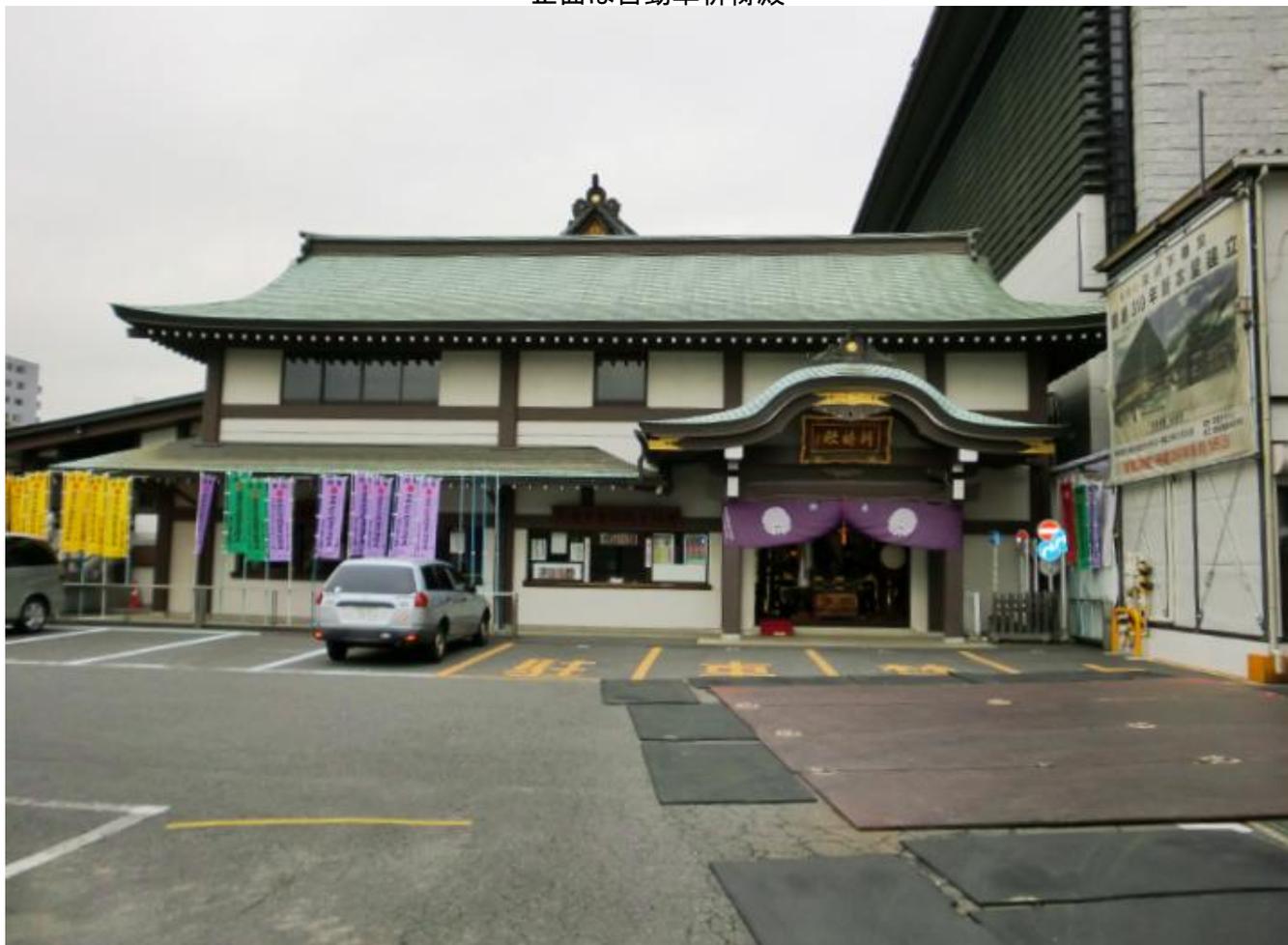


深川不動堂(不動尊)



成田山新勝寺の東京別院とされていることより「成田山」の名が付く

正面は自動車祈祷殿



ホームページ

<http://www.fukagawafudou.gr.jp/>

<http://www.fukagawafudou.gr.jp/shoukai.htm>

本堂/木造



元禄16年(1703年)創建

昭和26年に当時千葉県印旛沼のほとりに建っていた龍腹寺（1862年・文久2年建立）を深川に移築して本堂が復興したが、この時の建物が現在の本堂になっている。





後方が内仏殿



内仏殿は清水建設の施工



左手にはパチンコ屋？

これは新本堂とのこと。設計は「一級建築士事務所 玉置アトリエ」とか。□



「成田山東京別院深川不動堂開創310年記念事業新本堂建立工事」の看板がある

深川開運出世稲荷









内仏殿





歩いていると、こんなのもありました(どなたの設計かは分かりませんが)



いやー、色々ありますね



正面の建物は深川江戸資料館



清澄庭園



もと紀伊國屋文左衛門の屋敷で岩崎家が改修したものとのこと



芭蕉稻荷神社





深川芭蕉庵旧地の由来

俳聖芭蕉は、杉山杉風に草庵の提供を受け、深川芭蕉庵と称して延宝八年から元禄七年大阪で病没するまでここを本拠とし「古池や蛙飛びこむ水の音」等の名吟の数々を残し、またここより全国の旅に出て有名な「興の細道」等の紀行文を著した。

ところが芭蕉没後、この深川芭蕉庵は武家屋敷となり幕末、明治にかけて滅失してしまった。

たまたま大正六年津波来襲のあと芭蕉が愛好したといわれる石造の蛙が発見され、故飯田源次郎氏等地元の人々の尽力によりここに芭蕉稲荷を祀り、同十年東京府は常盤一丁目を旧跡に指定した。

昭和二十年戦災のため当所が荒廃し、地元の芭蕉遺蹟保存会が昭和三十年復旧に尽した。

しかし、当所が狭隘であるので常盤北方の地に跡を移転し江東区において芭蕉記念館を建設した

昭和五十六年三月吉日

芭蕉遺蹟保存

回向院アプローチ(円筒形の門の屋根)



明暦の大火(1657年)の犠牲者供養のために建立されたという

申し訳程度に屋上に塔状の建物がのる



歴代年寄り慰霊のための力塚



国技館ができるまで境内で相撲の興行が行なわれていたとのこと



これは犬猫などペットの供養塔とか



本所松坂町公園(吉良邸跡)



赤穂義士遺蹟



首洗い井戸



清澄庭園

一説には江戸の豪商、紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と伝えられています。その後、享保年間(1716~1736年)に下越国、間宿の城主久世大和守の下屋敷となり庭園のものが形造られました。

明治11(1878)年に岩崎彌太郎がこの邸地を社員の憩安や貴賓を招待する場所として造園を計画、明治13(1880)年に「深川親睦園」を開園しました。その後も造園工事は進められ、



田川の水を引いた大泉水をはじめ築山、周囲には全国から取り寄せた名石を配して明治の庭園を代表する「回遊式林泉庭園」として完成しました。昭和54(1979)年3月31日には、東京都の名勝に指定されています。

※なお、大正12(1923)年9月の関東大震災や昭和20(1945)年3月の大空襲の時には避難所として多くの命を救いました。

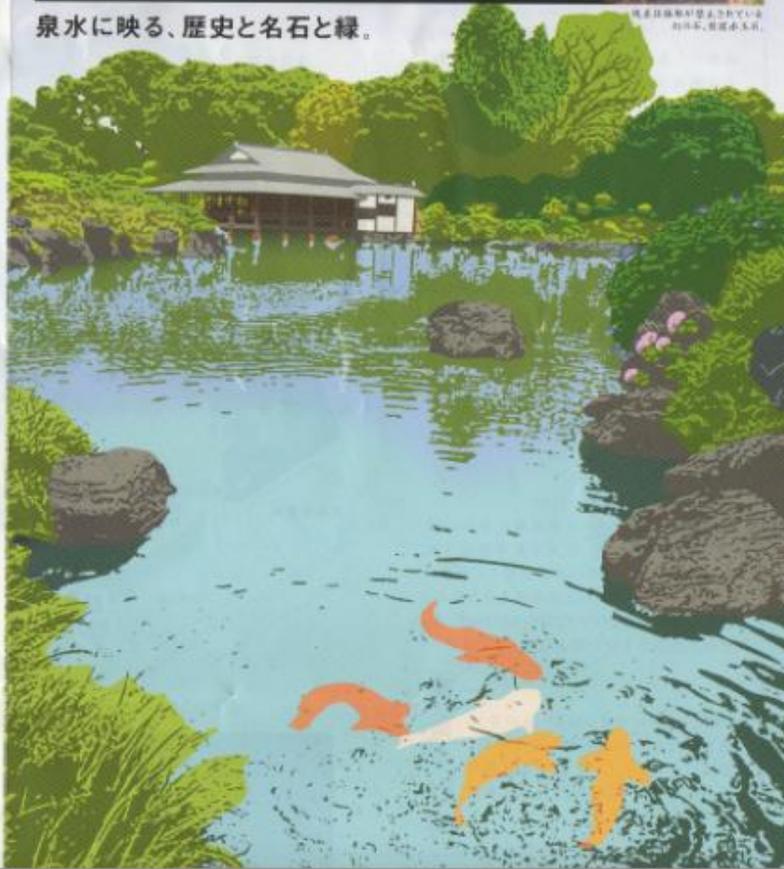


都指定名勝 清澄庭園 Kiyosumi Gardens

泉水に映る、歴史と名石と緑。



東京都指定の景勝地である
この名石、歴史を語る。



清澄庭園 Kiyosumi Gardens

開園年月日 昭和7(1932)年7月24日

開園面積 81,091.27㎡

樹木数 高木-4,224本 低木-12,414株+0,885㎡ 芝生-3,030㎡

主な植物 クロマツ、オオムラサキツツジ、アジサイ、ハナショウブ、カンヒザクラ

開園時間 午前9時~午後6時(入園は午後4時30分まで)

休園日 年末年始(12/29~1/1)

※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。

入園料 一般 150円 65歳以上 70円(小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料)

※20名以上の団体は、一般 120円 65歳以上 50円

集金施設 涼亭、大正記念館(有料)

所在地 〒135-0024 東京都江東区清澄3-3-9

お問い合わせ先 清澄庭園サービスセンター
☎3641-5892

交通のご案内 <電車>

都営大江戸線・半蔵門線「清澄白河」駅
下車 徒歩3分

<バス>

都営バス 亀戸駅北口7番乗場(門33)・
豊海水産専門学校「清澄庭園前」下車 徒歩3分

※駐車場はありません。



吉良上野介義央（二六四—一七〇二）

吉良家は、満和天皇の後裔で先祖は足利左馬頭義氏。江戸城における一切の典札を司る高家の地位を得たのは、祖父義邦の時です。寛永十八年生まれで二部の幼名を名のった義央は、十三才で将軍家綱に御見しました。のちに、京への使者を任され、立派にその大任を果たしたことから以後右衛尉左の家柄として重用されるようになります。寛文を応待することにかけては、義央はまさに天才だったようです。

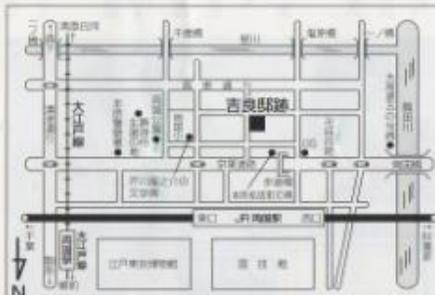
忠臣蔵では悪役に仕立てられた上野介でしたが、領地の三河の吉良(愛知県吉良町)では評判が高く、町の人は今でも「吉良様」と呼んで敬っている善政の殿様でした。新田の開拓や坂巻の発展に尽力するなど、多くの事業で成功をおさめ、特に一昼夜で築いたといわれる長さ百八十二メートルの堤があり、この治水工事で悪作が保証されたことから、今でも「黄金堤」と呼ばれています。領地に滞在している間は赤い馬に乗って領内を巡回するのが日課としており、「吉良の赤馬」は名君吉良様と共に今でもその名を残しています。



墨田区長 山崎 昇

赤穂浪士の討入りから、三百年以上の月日が経ちました。町並みや人々の暮らしが変わっても、忠臣蔵の物語は、今も私たちの心に響き続けます。そうした中、この吉良邸跡が、地域の皆様の手により、いにしへの物語を残し保存さ

れてきていることは、大変意義深いことでもあります。この吉良邸跡は、現在、本所松坂町公園として閉園されていますが、今後とも地域の皆様の手を借り、都指定旧跡の、墨田区の名所として、多くの方々に誇られていただけるよう努めてまいります。



本所松坂町公園：墨田区向国 3-13-9 (年中休休・入園自由)

両国三丁目吉良邸跡保存会
一般社団法人 墨田区観光協会
両国連合町会

都指定旧跡 吉良邸跡 本所松坂町公園



西国小学校の少し西側、旧本所松坂町・現在の墨田区西国三丁目、なまこ壁に囲まれた「吉良邸跡」があります。元禄十五年（一七〇二）十二月十四日、赤穂の四十七士が村入りしたと伝わり、「吉良邸」で知られることとなります。

吉良上野介の屋敷は、はじめ銀治橋の屋敷を拝領していましたが、刃傷事件のあと、赤穂浪士が吉良屋敷に討入るといふ噂があり、周囲の大名屋敷から吉情が出て、元禄十四年八月御用地として幕前に召し上げられ、一時ことも上杉徳正大將の屋敷に身を寄せ、その後、同年九月、ここ本所松坂町の松平會之助の屋敷を拝領し移り住みました。江戸城近くの屋敷から比べれば、赤穂浪士の村入りは、格段に容易になったと世間ではいわれました。

この吉良家上屋敷は、広大で東西七十三間（約一三四〇㍎）南北三十四間（約六三㍎）二千五百五十坪（約八四〇〇㍎）と記されています。吉良上野介がこの屋敷を拝領したが、元禄十四年（一七〇二）九月三日、義士の村入りがあつて没収されたのが元禄十六年二月四日と、前後一年半に満たない短期間でした。

屋敷の表門は東側、今の西国小学校に面した方にあり、裏門は西側で、東・西・南の三方は周囲に長屋があり、北側に本多孫太郎、土屋主税の屋敷と地続きになっていました。建坪は、母屋が三百八十一坪



三所門、北田二十五坪



吉良上野介公墓跡



園内にある銅像、討入りをとげた四十七士（四国橋たもと）

（約二一八〇㍎）長屋は、四百二十六坪（約一四〇〇㍎）でありました。現在吉良邸跡として残る本所松坂町公園は、二十九・五坪（約九八㍎）で当時の八十六分の一に過ぎません。これは昭和九年（一九三四）地元西国三丁目町会有志が発起人となって、邸内の「吉良の首洗い井戸」を中心に土地を購入し、同年三月に東京市に寄付し貴重な旧跡が維持されました。区への移管は昭和二十五年（一九五〇）九月です。公園をとり囲む高家の格式を表す「なまし壁」と奥まりの門が、僅かに、当時の模様を偲ばせています。



毎年十二月十四日、義士討入りの日には、西国連合町会主催・墨田区後援の「義士祭」が行われ、十一、百の第二または第三千番日・日曜日には、西国三丁目松坂町主催の「吉良祭」が開催され、主君のためになくなった吉良家菩提の冥福を祈っています。また、地元新聞屋出版の「元禄市」も開かれ、大変な賑いを見せています。

この園内に鎮座する「松坂稲荷」は、徳川氏入国後、現在の社地たる松坂町方面に御竹蔵が置かれた当時、その水内内に鎮座された「善喜稲荷」と、古くこの土地周辺に祀られていた「上野稲荷」の二社を合祀し、昭和十年当所に遷座されたものです。



首洗い井戸